

2024年3月期2Q決算に関するQ&A（要旨）

この質疑応答集は決算説明会で、投資家の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1. 「薬屋のひとりごと」が売上や利益に貢献する目途を教えてください。

A 10月から開始しました「薬屋のひとりごと」のアニメのテレビ放送や動画配信は、これまで以上に多くの方に目にさせていただく機会となっております。テレビ放送開始後は、出版しているライトノベルやコミックの販売が増加しました。今後さらに人気が高まることにより、映画化やグッズ販売、企業とのコラボレーションなど、多方面に展開できることを期待しております。

Q2. 過去の自社IPのアニメ化で、制作会社が自社グループではない事例もあると思うのですが、今後は自社IPのアニメ化は、極力自社グループで制作していく方針なのでしょうか。

A はい。自社IPのアニメ化については、組成された製作委員会の意向も踏まえた上で、可能な限り、自社グループでの制作を目指してまいります。

Q3. CM関連売上の今後の見通しをどのようにお考えでしょうか。また、CM関連のうち、Web向けのボリュームはどの程度あるのでしょうか。

A TVCMは前年対比において、市場環境は厳しいとみております。一方で、Web向けのCMについては徐々に増えてきております。金額ベースではまだ全体の半分に満たない状況ですが、こちらを強化している段階です。

Q4. 昨年度にグローバルE2E事業において、海外子会社で拡大する需要に対応するため、拠点の増設や人員増加などを実行されていると伺いましたが、今年度になってローカライズの売上が減っていますが、余剰な投資になったのでは、という懸念はありますか。

A 設備については適切な投資であると考えております。この数年ボリュームが大きかった動画配信事業者における旧作品のローカライズ作業については、一巡したため、全体の需要は少し減っておりますが、人員数のコントロールで調整することが可能と見ております。今後は新作に対しての競争となるため、いかに多くの動画配信事業者との結びつきを持つかがポイントとなると考えております。

以上